

平成 30 年 6 月 27 日現在(協議会総会承認済み)

## 平成30年度全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会開催要領

### 第 1 趣 旨

全国の農業大学校等においては、将来の農林業・農山村を担うべき人材を育成することを目的として、農林業経営の改善又は農山村生活の向上に関する科学的技術及び知識を習得させるため、農林業経営実践学習（以下「プロジェクト学習」という。）を基調とした多様な実践教育を行っている。

全国の農業大学校等の学生が一堂に会し、プロジェクト学習等日頃の学習活動成果を交換・交流し相互に研鑽を深め、農業に取り組む自信と誇りを培うとともに農業大学校等における研修教育の充実・進展と併せて農業大学校等の存在を広報する。

### 第 2 実施主体

全国農業大学校協議会

### 第 3 後 援（後援申請予定）

農 林 水 産 省

農業大学校同窓会全国連盟、公益社団法人大日本農会、  
一般社団法人全国農業改良普及支援協会、ヤンマー株式会社、  
アリストライフサイエンス株式会社、株式会社日本農業新聞

### 第 4 開催期日及び日程

平成 3 1 年 2 月 14 日（木）～16 日（土）

### 第 5 開催場所

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター  
東京都渋谷区代々木神園町 3 - 1

### 第 6 参加校及び参加者数

参加者は、全国の農業大学校等の学生及び指導職員、1校 5～6名（養成課程・研究課程）とし、参加者総数 300名程度とする。

### 第 7 行 事

#### 1. 全国発表会

5ブロック（東日本、関東、東海・近畿、中国・四国、九州・沖縄）の代表によるプロジェクト発表、意見発表及び講演等。

#### (1) プロジェクト発表

農業大学校等の学生が、プロジェクト学習において「自ら考え、自ら実践したこ

と、その成果とこれからの展開等」を発表する。

① 発表内容

ア 農林業経営に関すること、農林業技術の改善に関すること及び農山村生活の向上に関すること。

イ 平成28年度以降の全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会と他の団体の懸賞作文等の重複応募は禁止します

② 発表者

各ブロックで開催されたプロジェクト発表会において選出された者（個人、グループ）とする。発表は養成課程、研究課程別に行う。

養成課程：各ブロック3名

研究課程：各ブロック2名

③ 発表方法・時間

発表は、会場に設置してあるAV装置を使用し、パワーポイント（～2013但し画面4：3とする）を活用して行う。AV装置は発表者又は補助者が操作を行う。

発表時間は、養成課程12分（発表10分、質疑2分）、研究課程15分（発表10分、質疑5分）とする。

なお、発表時間9分経過時に1鈴、10分経過時に2鈴、11分経過時に3鈴を鳴らす。

④ 事前提出資料

ア、審査・助言等の資料として、発表要旨（別記様式1）を平成30年1月25日（木）までに発表会事務局へメール添付で提出する。

発表会事務局メールアドレス：noudaikyo@apricot.ocn.ne.jp

イ、発表時に使用するデータは、CD又はUSBメモリで平成30年2月13日（火）に実施するリハーサル時に発表会事務局に提出する。

⑤ 審査及び審査員

ア、審査は、審査基準に基づき行う。

イ、審査は養成課程、研究課程に分けて行う。

ウ、審査員は、農林水産省青年農業者育成関係者、**試験研究機関の担当者**、農業大学校の研修教育に理解の深い学識経験者、農業団体・農業改良普及関係者、から選任する。

エ、審査員は、審査、助言、講評を行う。

オ、審査の結果、最優秀賞、優秀賞、特別賞、優良賞を選出する。

⑥ 審査基準

ア、発表内容 60点

課題設定の背景や調査・研究への取組み方、成果の取りまとめ方及び今後の展開等。

イ、発表方法及び態度 30点

発表資料等の準備、説得力、発表態度時間配分等

ウ、理解度 10点  
 質疑に対する応答、態度等

審査項目

	ア、発表内容 60点	イ、発表方法及び態度 30点	ウ、理解度 10点
審査項目	① <b>テーマの設定</b> はふさわしいか。 ② テーマに沿った計画で調査・研究を進めたか。 ③ 実践・調査・研究が的確であるか。また、実践・調査・研究課程において <b>創意工夫</b> がみられたか。 ④ 資料の検討・分析が十分に行われ、 <b>成果の判断</b> が総合的に出来たか。 ⑤ 実践・調査・研究の <b>成果を自家の経営または地域の農業にどう展開</b> しようとするのか。	① 発表の内容が総合的に整理されているか。 ② パワーポイント等は分かりやすくまとめ、説明は的確であったか。 ③ 話し方や発表態度は良かったか。 ④ 発表時間を有効に活用したか。	① 質疑に対する応答・態度等は的確であるか。

⑦ 表彰

審査の結果、選出された者に対し次の区分により表彰する。

養成課程

- 最優秀賞（農林水産大臣賞） 1 点
- 優秀賞（経営局長賞） 1 点
- 特別賞（農業大学校同窓会全国連盟賞、ヤンマー株式会社賞、アリストライフサイエンス株式会社賞、株式会社日本農業新聞賞）
- 優良賞（全国農業大学校協議会会長賞）最優秀賞、優秀賞、特別賞受賞者を除いた発表者全員

研究課程

- 最優秀賞（経営局長賞） 1 点
- 特別賞（農業大学校同窓会全国連盟賞、ヤンマー株式会社賞、アリストライフサイエンス株式会社賞、株式会社日本農業新聞賞）
- 優良賞（全国農業大学校協議会会長賞）最優秀賞、特別賞受賞者を除いた発表者全員

## (2) 意見発表

### ①発表内容

ア、大学校等における実践学習、我が家の農林業経営や生活、地域の農山村環境、就農等について、自らの学生生活を通じ日頃考えていることや思い等について意見を発表する。

イ、平成28年度以降の全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会と他の団体の懸賞作文等の重複応募は禁止する。

### ②発表者

各ブロックの発表会において選出された者とする。各ブロック2名（養成課程、研究課程及び学年を問わない）とする。

### ③発表方法と時間

発表は口演とし、発表時間は10分（発表8分、質問2分）とする。

なお、発表7分経過時に1鈴、8分経過時に2鈴、9分経過時に3鈴を鳴らす。

### ④事前提出資料

審査・助言等の資料として、発表要旨（別記様式2）を平成 年1月25日（水）までに発表会事務局へメール添付で提出する。

発表会事務局メールアドレス：[noudaikyo@apricot.ocn.ne.jp](mailto:noudaikyo@apricot.ocn.ne.jp)

### ⑤審査及び審査員

ア、審査は、審査基準に基づき行う。

イ、審査員は審査委員会設置要領による。農林水産省青年農業者育成関係者、試験研究機関の担当者、農業大学校の研修教育に理解の深い学識経験者、農業団体・農業改良普及関係者、等から選任する。

ウ、審査員は、審査、助言、講評を行う

エ、審査の結果、最優秀賞、特別賞、優良賞を選出する。

### ⑥審査基準

ア、課題設定の背景と動機 40点

課題設定の背景や取り組みの過程、成果のまとめ方、今後の展開等。

イ、意見・提言の内容 50点

主張内容の実現性や創造性、地域性、社会性等

ウ、発表方法・態度 10点

発表態度、発表法の工夫、時間配分等

審査項目

	ア、課題設定の背景と動機 40点	イ、意見・提言の内容 50点	ウ、発表方法及び態度10点
審査項目	①農業・農村を直視した課題設定であるか ②主張に地域的、社会的広がりがあるか ③自分自身の立場に立脚した主張であるか。	①主張の内容が広く社会に受けられるものか ②主張の内容に実現性と創造性があるか ③農業・農村を担う農大生としての夢や希望を具体的に持っているか	①はっきりと分かりやすい発表であるか ②自信のある態度で発表できたか。 ③聴衆の関心を得ることに工夫をしているか

⑦表彰

審査の結果、選出された者に対し、次の区分により表彰する。

最優秀賞（経営局長賞）1点

特別賞（農業大学校同窓会全国連盟賞・ヤンマー株式会社賞・アリストライフサイエンス株式会社賞・株式会社日本農業新聞賞）4点

優良賞（全国農業大学校協議会会長賞）最優秀賞、特別賞受賞者を除いた発表者全員

(3) 交歓会

参加学生及び指導職員による農業大学校等の紹介、日常における実践学習や学生生活の情報交換等を行い相互の研鑽と親睦を深める。

(4) 講演等

就農後の経営発展への取組、経営ビジョン等に係る講演を通じ、学生の修学意欲を高揚するとともに、農業に取り組む自信と誇りを培う。

演題：「新規就農に向けて」（仮称）

講師：オルトファーム経営主 森安晃司 氏（岡山農大卒業生）

2. ブロック発表会

各ブロックにおいて、道府県農業大学校等学生・指導職員参加の下、プロジェクト発表、意見発表等学習成果の交換・交流を行い、各ブロック別に優秀発表者を選出、全国発表会に推薦する。

(1) プロジェクト発表

発表者は、農業大学校等の学生でブロック内の各校から選出された者（個人またはグループ）とする。各校別発表者数は、各ブロック別に定める。

全国発表会への推薦者数

成課程：各ブロック3名

研究課程：各ブロック 2～4名

## (2) 意見発表

発表者は、農業大学校等の学生でブロック内各校から選出された者とする。各校別発表者数は、各ブロック別に定める。

全国発表会への推薦者数：各ブロック 2名（養成課程、研究課程、学年を問わず）

## (3) 審査基準等

プロジェクト発表、意見発表の発表内容、発表方法、時間、審査基準等は全国発表会に準ずる。

## 第 8 発表会の運営

- (1) 全国発表会の運営及び進行は学生が主体となって行うものとし、指導職員は指導助言する。
- (2) 全国発表会の円滑且つ効果的な実施を図るため、全国農業大学校協議会役員校の学生、指導職員で構成する運営委員会を設置する。
- (3) 全国発表会における分科会討議の効果的実施を図るため、参加農業大学校の引率指導職員（全国農業大学校協議会役員校を除く）は、分科会討議の指導助言等協力するものとする。
- (4) ブロック発表会の運営については、各ブロック別に定めるものとする。

## 第 9 事務局

### (1) 事前準備

全国農業大学校協議会（東京都港区赤坂 1 丁目 9 番 1 3 号 三会堂ビル）

TEL：03-6441-0272 FAX：03-6441-0273

Eメール noudaikyo@apricot.ocn.ne.jp

### (2) 発表会期間中

国立リハビリテーション記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町 3 番 1 号）

・TEL：03-3469-2525 FAX：03-3469-2277

事務局は、開催期間中設置します。

## 第 10 参加者名簿の提出

参加者名簿（後日掲載する。）は、全国農業大学校協議会のホームページのお知らせ「平成 30 年度全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会開催要領」よりダウンロードし、ファイルに該当事項を入力の上、平成 31 日 年 1 月 18 月 日（金）まで発表会事務局 noudaikyo@apricot.ocn.ne.jp にメール添付で送信する。

## 今後への課題

近年の傾向として農大が主体となった試験プロジェクト（農大プロジェクト）が増加傾向にあり、論文構成もしっかりしていることから評価も高い。しかし、テーマの設定や実験・調査・研究過程において全てが発表者の創意工夫だけによるものだったのかはよくわからない点がある。また、今回2課題あったグループプロジェクト（共同プロジェクト）においても研究の役割分担に不明な点が多い。表彰が現行で発表者本人に限られているが果たして今後も今のままでよいのか。議論の余地がありそうに思われた。

プロジェクト発表のプレゼンテーションに初めて動画が取り入れられていた。マスコミはよく説明の補足と裏付けに動画を使用するが説得手段として効果が期待できる。こうした演出を無制限に放置するのか、一定の歯止めをするのか、新しい発表スタイルとして検討をしておく必要性を感じた。（審査委員長の講評より）

この課題については平成30年度の開催案内の際に通知するが、第1回理事会での意見は次のとおり。

- ・動画の利用：発表時間内で行う。
- ・生産物等の持ち込み：持ち込まない。
- ・発表時の服装：制服又はスーツとする。